



【事例 1】 市原市 : 皆吉・金沢・志保井・藪第一資源保全隊

1. 組織の概要

| 協定締結年度 | 協定面積(ha) | 構成員 | 集落数 |
|--------|------------------------------|-----------------------|-----|
| 平成19年度 | 90.4ha (田:86.0ha、畑:4.4ha) | 農業者172名、 各町会、子ども会等 | 4 |

2. 地区の概要

皆吉地区は市原市の中央部に位置する都市近郊農業地帯で、高滝ダムから約3km下流の水田地帯です。昭和60年から平成5年にかけて基盤整備が行われ、省力化した稲作栽培が行われています。



小学生による田植え体験

3. 合意形成の経緯と組織の運営

この活動組織は土地改良区が中心となって事業説明を行い設立され、地元の4町会や長寿会、子ども会などが農業者とともに担っています。

組織の活動については、年度当初の構成員会議で協議し、地区が広いため14のブロックに分担して、それぞれに責任者を決めて共同活動を行うなど、円滑な運営のための工夫が見られます。

4. 特徴的な活動について～学校教育等との連携～

皆吉は里山に囲まれた自然豊かな地域であり、自然を生かした農村環境向上活動に力を入れています。特に、学校教育との連携については、活動が授業の一環としても取り入れられており、地域に根付いた活動を展開しています。写真は耕作放棄地を利用して牛久小学校の児童たちがひまわりの種を播く様子です。みな真剣な表情です。夏には児童たちの期待どおりに、きれいなひまわりが咲きました。



ひまわりの種播き



耕作放棄地に咲いたひまわり



ひまわりの種取り

させた後、油を絞る、この油を用いた調理実習なども行われています。

今回、この種から取ったひまわり油は25リットルほどになるそうで、児童たちも調理実習を心待ちにしているそうです。

ひまわりはそのままほ場で育て、種が熟したら取り出します。

左の写真は1～3年生がひまわりの花托（かたく）から種を取り出す作業に

ひまわりの油搾り

熱中しているところです。

種は十分に乾燥



ひまわり油→



小学生による稲刈りの様子

また、環境の状態を知る一つの指標としてホタルを取り上げ、PTAや子供会、小学校との連携で地区内の水路を使いホタルの観察会も開催しています。

様々な活動を通じて、地域全体で農村環境の保全・向上意識を高めることに取り組んでいます。

小学校に隣接した耕作放棄地では、田植えから稲刈り、収穫したお米を使った調理実習まで、米作りの1年間を小学5年生が体験する活動を行っています。左の写真は、鎌を手に稲刈りをする児童たちの様子です。5月頃に自分たちが植えた稲が見事に実り、作業に慣れるとどんどん刈っていきます。



カワニナ（ホタルの餌）の観察

5. 今後の活動について(体制整備構想の概要)

このような活発な活動を行っている地域ですが、10年後には高齢化と担い手の減少は避けられないことから、将来の体制については、農地の利用集積を図るとともに、個々で保有している機械の共同活用によるコスト削減、担い手については定年帰農者の積極的な営農への参画を進めるとともに、他地域からの援農者の受け入れ、高齢者による農作業グループの結成と省力化の推進等で乗り切ることを目標としています。

また、平成22年度から担い手組織を結成し、育苗から始めて、将来的には刈取、乾燥、調整などを行う稲作一貫体制を作るとともに、地域の米を「皆吉米」として市外、県外へ販売することで価格の下落をカバーし、地域の担い手確保を図ることとしています。

